

2025年12月17日

情報空間のリスク研究会 「AI×インテリジェンス 認知戦での活用」 実施報告

中曾根平和研究所・情報空間のリスク研究会は、2025年12月17日、Sakana AI 株式会社の国際政治経済アナリスト・防衛インテリジェンス担当プロジェクトマネージャーである石井順也氏からのご報告を元に議論を行いました。要旨は次の通りです。

石井氏は、「AI×インテリジェンス 認知戦での活用」と題し、Sakana AI の防衛・インテリジェンスチームが進めている取り組みについて報告を行った。

Sakana AI は、AI による国家インテリジェンスの強化を重要な事業分野の一つに位置づけている。具体的には、大量のオープンソース情報を AI に分析させることで、注目すべきファクトを特定・整理し、重要なインサイトを導出するとともに、シミュレーションを通じて将来の予測や対策を提示することを目指している。独自の技術を生かし、AI に自律的な判断を行わせることで、従来にはなかった斬新な情報分析を実現しようとしている。

とりわけ SNS 分析は、AI の強みを最大限に生かせる領域と考えており、主に国家にとって喫緊の課題である認知戦に焦点を当てながら、さまざまなテーマについて具体的な分析を行っている。その一例として、今回の報告では、11月7日の高市首相による「存立危機事態」をめぐる国会答弁を契機に、日中関係をめぐる言説が SNS 上でどのように形成・拡散されたかに焦点を当てた分析が紹介された。

SNS 上の日中関係に関する膨大な投稿を収集した上で、Sakana AI の最新技術を活用し、多様なナラティブを広範に捕捉した。ナラティブはさまざまな基準に従ってクラスタ化され、それぞれの特徴や拡散の推移、影響などが示された。また、言説の極端さやプロパガンダの可能性についても多角的な分析が行われた。さらに、外交的動向をはじめとする周辺情報との関連性も検討しつつ、独自のインサイトが提示された。X 以外のプラットフォームや言語別分析、そこから得られる示唆についても説明があった。

あわせて、AI を活用した偽情報の検知技術についても紹介された。今回のテーマに関連する具体的な投稿を取り上げ、中国外交部の発表内容に含まれる誤りや、「日本は台湾を防衛すると宣言した」とする海外での報道の不正確さなどについて、AI が具体的な理由を挙げて真偽判定を行った。最後に、今後の技術発展の可能性と SNS 分析へのさらなる応用について展望が示された。

質疑応答では、SNS 分析の手法や AI 技術の特徴、SNS 以外の情報との関連性などについて、今後の可能性も含めてさまざまな意見やコメントが寄せられた。石井氏からは、今後も分析を継続し、研究会においてさらなる報告を行いたいとの発言があった。

(了)